

生きる場の思想

講演要旨

戦後日本社会における様々な反戦平和運動・文化について、地域的な裾野の広がりの中で歴史的な評価が刷新されつつある。本企画では、花崎皋平氏から、北海道におけるベトナム反戦運動への関りから伊達火力発電所・泊原発反対の地域住民運動、アイヌ民族の復権運動、アジアとの連帯運動への関りと、自身が歩いた風景や出会った人々の顔から見えてくる地平についてお話しいただく。もう一人の講演者である原田公久枝氏はアイヌの歌と踊りのパフォーマンスアーティストであり、「生きづらさ」を抱えた人からみた「共生」への疑問をテーマにお話しいただく。本企画を通して、関西では知られていない北海道／アイヌモシリの視点から戦後社会をとらえ返す機会としたい。

講演タイトル

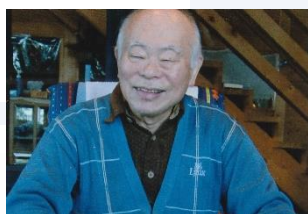
「共生」をめぐる

講演タイトル

タントアナクネピリカ 今日は良い日だ

講師

花崎 皋平



プロフィール

花崎 皋平(はなざき こうへい)

1931年東京生まれ。北海道大学教員をへて、著述業。ベトナム反戦運動、伊達火力発電所・泊原発反対など地域住民運動、アイヌ民族の復権運動に関わる。1989年、ピープルズ・プラン21世紀国際民衆行事で世界先住民会議の運営事務局に参加。さっぽろ自由学校「遊」、ピープルズ・プラン研究所の創設にかかわる。主著として『田中正造と民衆思想の継承』(七つ森書館)、『詩集アイヌモシリの風に吹かれて』(クルーズ)、2022年に戦後から現在に至る精神的歩みを『生きる場の思想と日々』(藤田印刷エクセレントブックス)にまとめる。

講師

原田 公久枝



プロフィール

原田公久枝(はらだ きくえ)

1967年北海道河西郡芽室町生まれ。5歳の頃より、帯広カムイウポ保存会にて祖母、加藤なみえ他にアイヌの歌と踊りを習う。現在パートをしながらアイヌの活動(歌・踊り・講演・執筆・お笑い)を行う主婦。アイヌの歌と踊りの姉妹ユニット・フンベシスターズのメンバー。さまざまな「生きづらさ」を抱える人たちの思いをつづる場として、フリーペーパー「RUYKA ITAK(ルイカ イタク)」を発行。「おかあちゃんとおとおちゃんの話」『家族写真をめぐる私たちの歴史』所収(お茶の水書房)。

コーディネーター/司会

番匠 健一

番匠 健一(ばんしょう けんいち): 広島国際学院大学准教授、立命館大学国際平和ミュージアム平和教育研究センターリサーチャー。専門は歴史社会学、地域研究。

2022年 6月4日(土) 13:30~16:00
開場 13:00~

①対面 or ②Zoom(オンライン) でご参加ください。

①立命館大学 衣笠キャンパス

末川記念会館 1F 講義室

(参加は事前申込制、先着 100 名様)

お申し込み開始日: 5月23日(月)

お申し込み締切日: 6月2日(木)

右記 URL または QR コードから必要事項を入力してお申し込みください。

【交通案内】

市バス 12・15・50・51・52・55・59、JR バス 高雄・京北線

「立命館大学前」下車、徒歩 5 分

市バス 204・205「わら天神前」下車、徒歩 10 分

※駐車場はございません。お車でのご来館はご遠慮ください。

②Zoom によるオンライン開催

(参加は事前申込制)

お申し込み開始日: 5月23日(月)

お申し込み締切日: 6月2日(木)

下記 URL または QR コードから必要事項を入力してお申し込みください。

<参加お申し込みページ>

<https://www.ritsumeikan-wp-museum.jp/news/20220513/>

